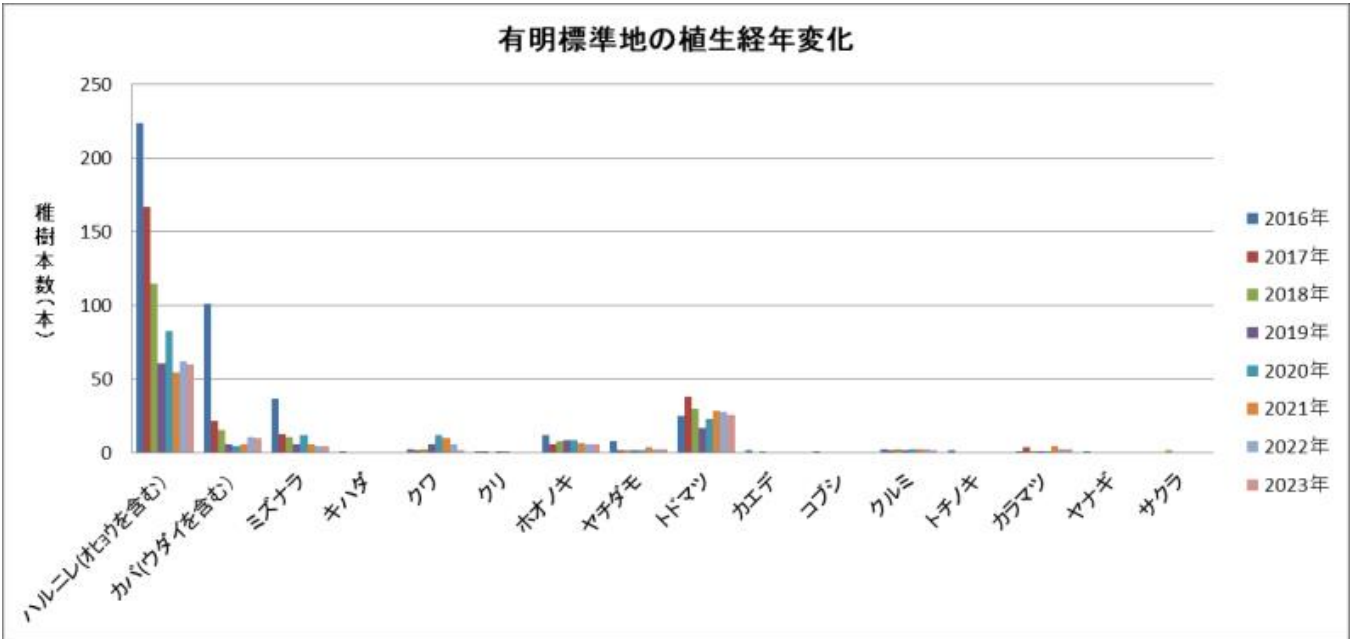


有明第二都市環境林の植生調査

2023/8/20

有明標準地の植生経年変化



有明標準地植生の変化



札幌市有明第二都市環境林は当会の発足時からの活動地で、全体面積は14ha、その内0.3ha程が太い根曲がり竹チシマザサに覆われたギャップ地でした。

そこを木々が生き茂る森林にしようと先輩会員と一緒に苦労してササ藪を刈り、植樹をしたが、シカが多く生息し、その食害により大きな成長はできず、食害防止柵や網を使って稚樹の生長を見守ってきました。

避難小屋前に12.5m角の食害防

止網を設置して途中で食害が見られたので嵩上げをして約2mの高さにし、12m×6mの標準地を設定し、2016年から植生を調査してきました。その結果を図に示します。

このギャップ地は0.3ha程の狭い面積なので、周辺の母樹からの種子が発芽し生長しています。オヒョウを含むハルニレが多く、トドマツ、カンバ類、ミズナラ、ホオノキが確認でき、樹種数は9種類ほどとなっています。

ha当り本数は調査当初は5万本を超えていましたが、自然淘汰されて現在は1.7万本あまりで推移しています。

このことから、この程度のギャップ地では自生稚樹を育て、推移を見守りながら播種、植樹などにより樹種数を増やし豊かな森林に誘導できると思われませんが、長い年月をかけた育林活動が必要になります。

(文・檀棒)